



あおい 2024

郡山市立守山小学校
令和6年9月13日
学校だより No. 8

充実した体験学習

その1 5年生「宿泊学習」

5年生は9月1日と2日、いわきに足を運んで宿泊学習を行いました。

1日目は四倉海岸での「砂の芸術制作」といわき海浜自然の家で「キャンドルファイヤー」を実施しました。台風10号により実施できるかどうか心配しましたが、当日の四倉海岸というと夏を思わせるような日差しと心地の良い海からの風により、絶好の「砂の芸術」制作日和となりました。多くの友だちは、広々とした海に心奪われ、歓声を上げながら寄せてくる波に足を濡らしていました。班によっては、リーダーが中心となって制作への構想を深め、砂を集めたり固めたりしていました。午前中にできあがった班もありましたが、せっかくの作品が潮が満ちてきてもろくも崩れてしまうアクシデントに見舞われました。それでも気を取り直し、一から作品づくりに取り組んでいました。

各班で制作した作品を紹介します。

- | | |
|----|------------|
| 1班 | ワニ |
| 2班 | いっぱいアート |
| 3班 | 川とともに山 |
| 4班 | カメの親子【準優勝】 |
| 5班 | サメ【優勝】 |
| 6班 | 富士山 |
| 7班 | かめ |
| 8班 | 足湯と富士山 |



夜はキャンプファイヤーの予定でしたが、活動の途中で大雨が降る予報があり、急遽、体育館でのキャンドルファイヤーに変更しました。キャンドルにともされた火が厳かなムードを醸し出します。火の神から健康・協力・友情・奉仕の気持ちを誓う火がもたらされ、それが一人一人に手渡される様子はとても心あられました。その後のスタンプは「みんな仲よし5年生」を体現するような、たのしいダンスとゲームに取り組みました。



今日の「寝床」はロッジ（館外）なのでエアコンはなく、各棟に扇風機が2台配備されていました。とても暑かったのですが、陽が落ちて夜になるとだんだん涼しくなってきました。子ども達は、昼間の活動に全力を傾けたせいか、あっという間に夢の世界に入っていました。

2日目のメインは、アクアマリンふくしまでの見学とお土産購入でした。

様々な展示物を見て歩いた先には、前日と同じように水遊びのできる「蛇の目ビーチ」が出現して、子ども達の目がキラキラと輝きます。水辺には、様々な種類のヒトデ（とうぜん無害）が生息していて、びくびくしながら触ったことがない生き物に手を伸ばしていました。また、数人ではありましたが、どういうわけか頭や衣服が濡れていて、そのままではバスの乗ることができないためにそっと着替えをした、という「事件」もあったそうです。ショップでは、準備などでお世話になった家族のために、お菓子やキーホルダーを買っていました。

2日間で、一回りも二回りも成長した子ども達でした。ご協力、ありがとうございました

その2

4年生「郷土を学ぶ体験学習」

4年生は、9月9日に「安積疏水をめぐる旅」に出発しました。

安積疏水(あさかそすい)は、猪苗代湖より取水し、福島県郡山市とその周辺地域の安積原野に農業用水・工業用水・飲用水を供給している疏水である。水力発電にも使用される。安積開拓の一環であり、当初は猪苗代湖疏水と呼ばれていた。那須疏水・琵琶湖疏水と並ぶ日本三大疏水の1つに数えられている。土木学会選奨土木遺産、日本遺産、かんがい施設遺産に選定。

現在では、幹線延長143km、受益面積9920ha、利用組合員約一万戸、一日取水量33万^mに達している。(出典:フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

子ども達は社会科の学習で、主要3人物(県令の中條氏、政府の大久保氏、設計者のドールン氏)など、視聴覚教材で様々な「知識」は入っていました。今回は、実際にどのような施設なのか、どうやって流しているのかを自分の目と耳を使って確かめる活動です。

はじめに、開成山公園と開成山大神宮に行って、石碑に刻まれていることを見たり、先生から詳しい解説を聞いたりしました。国家予算の三分の一にあたる大事業であったこと、中條が何回も政府に陳情したこと、全国各地の武士に呼びかけ四国や九州からも新たな仕事を見つけにやってきたことがわかりました。



次は、十六橋水門を見学に行きました。

十六橋水門は、安積原野へ水を流すために猪苗代湖の水位を調整する水門です。日橋川を水源としている会津の方々に迷惑をかけてはならない、という思いから、安積疏水工事で一番初めに工事が始まりました。完成当時は16の石造のアーチでできており、日本では長大な水門であったそうです。安積開拓・安積疏水開さく事業のシンボリックな構造物で、大正期には、東京へ送電を目的として建設された猪苗代第一発電所に併せて大規模な改修が行われ、現在に至ります。(出典: <https://www.kanko-koriyama.gr.jp/asaka-sosui/contact.html>)



その脇には、ドールン氏の銅像が建てられています。戦時中、金属不足の状況から次々と銅像が取り除かれ兵器に変わっていったことから、土に埋めて隠したという話は有名です。

最後は上戸取水口です。猪苗代湖の水は、郡山市の上水道として活用されていますが、こちらの取水口は、かんがい用水(飲み水ではない)として使われます。

猪苗代湖から毎秒15トンもの水を取り入れているそうで、それも湖の表面(温度が少しでも高くなるように配慮)の水を取り入れているとのこと。なんと、この水量だと学校のプールは3分足らずで満水になるらしく、子ども達はとても驚いていました。また、取水量が決まられていて、次の日(9月10日)がフルで取水する最終日となっていたと知って、またまたびっくりしていました。説明を聞きながら、真剣にメモを取っていました。

(子ども達への説明のために、開成山の土地改良区事務所からおいでいただきました。ありがとうございました。)

